

おおきに健康 歯とお口から

Vol.
43
2025年秋号

今号から
デザインをリニューアル
しました!

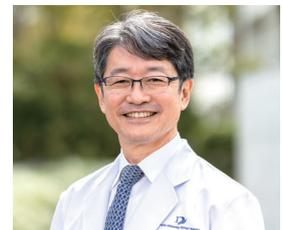
Contents

お口の相談コーナー
顎変形症ってなに?

診療科・部門紹介
顎変形症センターに取材しました!

病院トピックス

病院広報誌「おおきに健康 『歯とお口から』」が新しくなりました



病院長 山城 隆

いつも『歯とお口から』をご覧いただき、ありがとうございます。

当院は「お口の最後の砦」として、安全で質の高い歯科医療を提供することを使命としております。新しい医療を生み出す臨床研究など様々な取り組みを進め、再生医療の応用、デジタル技術を取り入れた検査や診断、遺伝子やビッグデータを活用した歯科治療など、新たな試みを次々と始めています。

今回のリニューアルでは、これらの取り組みをより分かりやすくご紹介するのはもちろんのこと、皆

様に当院のスタッフをもっと知っていただくためのインタビュー記事なども掲載いたします。また、これまで年4回発行だったものを年3回に変更し、その分、各診療科からの専門的な情報をより深く掘り下げてお届けいたします。

歯科医療は日々進歩しています。この「おおきに健康『歯とお口から』」を通して、最新の医療情報と当院の活動内容を皆様にお伝えし、お口の健康維持に役立てていただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

顎変形症ってなに？

「顎変形症」とは、顔の顎の骨のゆがみが問題となって、噛み合わせに異常をきたした状態です。近年、顎変形症に対する認知度が高まり、咬合不全や審美的改善のみでなく、さまざまな口腔機能の改善を目的に、治療を希望する患者さんが増えています。



顎変形症センター
横田 祐介センター長

大阪大学歯学部卒業。大阪大学歯学部附属病院口腔病態系科口腔外科1(制御系)で勤務。2025年8月現職に就任。

Q. 顎変形症とは何ですか？



A. 上下の顎の骨のバランスが悪く、見た目や機能面に悪影響を及ぼす病態のこと。

顎変形症とは、顎を構成する上顎骨と下顎骨の大きさの異常、形の異常、位置の異常などによって、噛み合わせが悪い状態になり、うまく噛めない、話しづらいなどの機能異常が現れる病態をいいます。顔の見た目にも大きく影響するため、精神的ストレスが伴う場合もあります。噛み合わせが悪くても骨に問題がない場合は顎変形症には含まれず、歯の矯正で治ります。ですが顎の骨のバランスが悪く不調が出ている場合に、顎変形症と診断されます。(専門の矯正科医による診断が必要です)

Q. 顎変形症にはどのような種類がありますか？



A. 骨格性の疾患として4つに大別され、先天的または後天的な要因で発症します。

分類は大きく分けて4つで、日本人で最もよく見られるのは、「下顎前突症」。下の顎がぐっと出ているいわゆる受け口の状態をいいます。一方上顎が前方に位置する「上顎前突症」は、下顎の劣成長、もしくは上顎の過成長が原因です。また、下方向への顎の過成長により、奥歯のみが接触し上下の前歯部が当たらない「開咬症」や、左と右の成長量の差によって生じる「顔面非対称(顎偏位)」があります。顎変形症の原因はさまざまで、遺伝を含めた先天性の要因や、外傷・生活習慣といった後天的な要因が関与することもあります。

Q. どうやって治療しますか？



A. 各症例に応じて、外科的な顎矯正手術による治療を行います。

骨格の異常を、顔貌写真やレントゲン写真、筋機能検査などにより診査した後、総合的に顎変形症と診断された場合には、健康保険適用内で各症例に応じた治療を受けることができます。治療の流れとしては、まず半年から2年程度の術前矯正治療を開始。その後、外科的な顎矯正手術、いわゆる「骨切り」を行います。よく使われる術式は「ルフォーI型骨切り術」。上顎全体の移動を行う方法です。上の歯茎を切って口の中からアプローチし、鼻の横くらいから水平に上顎を切り落とします。前後・左右・上下と3次元的な位置の修正を行い、骨接合用のプレートで上顎をしっかりと固定します。固定用のプレートには、純チタン製の金属プレートと、数年間で自然に消失する吸収性プレートがあります。「下顎枝矢状分割術(SSRO)」は下顎を前方移動・後方移動させる術式として頻用されます。頬の内側あたりの歯茎を切って、そこから下顎の骨を骨切りしてプレート



で固定します。また、噛み合わせをより緊密に整えるために術後矯正治療も必要となります。一昔前に比べると手術時間は格段に早くなり、特に困難な症例でなければ、上下顎骨切り術は3時間程度で終わります。

顎変形症センターに取材しました！

2025年8月、顎変形症治療を専門に手がける国内有数のハイボリュームセンターとして「顎変形症センター」が開設。その概要と特徴について、横田祐介センター長にお聞きしました。



患者さんの様々な要望に応えるために。 2025年8月にセンターを開設

大阪大学歯学部附属病院口腔外科では、1971年から歯科矯正科とのチームアプローチによる外科的矯正治療を導入し、現在では年間に200件を超える顎矯正手術を行っています。また、外科的矯正手術をもとめて来院する患者さんは近年急増しており、それぞれが抱える症状や悩みも多様化しています。顎変形症治療に関わる多くの診療科をシームレスで繋ぎ、最適で良質な治療を一貫して提供するために、2025年8月1日、「顎変形症センター」が開設されました。顎変形症における治療では、不正咬合だけではなく、審美面や機能面に生じる不調も改善されるため、より健康になれることがメリット。顎変形症かも？と悩まれている方は、是非一度ご来院ください。

特徴

1

診療科の垣根を越えた
プロフェッショナルが連携

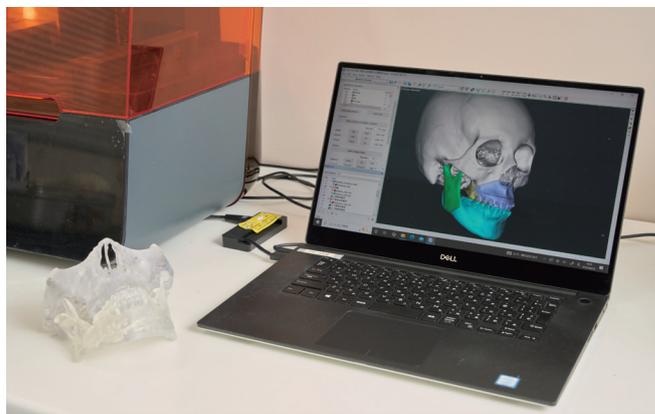


顎変形症センターでは、口腔外科、矯正科、小児歯科、顎口腔機能治療部など、診療科の枠を越えてさまざまな科の先生が連携しています。また、定期的にカンファレンスを行い情報を共有しています。症例によっては、骨切り術だけではなく、骨の延長術や顎関節に対する手術が必要なケースも。どうしたら患者さんにとって負担が少なく、綺麗に、機能的に治るか、一点一点細かく検討しながら手術計画を立案します。また、顎矯正手術のような骨を切る手術では、出血を抑えるため、意図的に血圧を下げる「低血圧麻酔」を用います。術中の全身麻酔管理が重要なため、麻酔科の先生とも綿密に連携をとっています。加えて、当院には、口唇裂・口蓋裂などの顔面裂を有する先天異常を専門的に治療する「口唇裂・口蓋裂・口腔顔面育成治療センター」があります。このような疾患に起因する顎変形症は難症例であることも多く、複数回にわたるディスカッションを重ね、高度で専門的な治療を行っています。

特徴

2

先進の機器を使用して身体に
負担の少ない外科手術を実現



オーラルDX※として、全症例に対し、専用ソフトウェアを用いた術前3Dシミュレーションを行っています。これまでの平面(2次元)で行っていたシミュレーションと比べ、実際の手術をより反映した術前計画を立てることが可能となりました。これにより、身体への侵襲が少なく、より安全で正確な外科手術を実現しています。また、一人ひとりに合った各種ツールを作製できる3Dプリンターも導入しており、術中に適正な顎の位置を決めるために必要なCAD/CAMスプリントを作成。より理想的な位置に顎の移動ができるようになりました。さらに、上顎の多分割が必要となるような難手術では最新のナビゲーションシステムを活用しています。骨の中に隠れている歯根の位置がリアルタイムで分かるため、歯を傷つけることなく、より安全な手術が目指せます。これら、先進機器を活用した手術法の新規開発や顎変形症に関する遺伝子の解析など、センターならではの臨床研究にも注力しています。

※大阪大学からの支援により当院で進めているデジタル技術を使った最先端の治療・研究活動

病院トピックス

患者支援アプリ「ウェルコネ」登録はお済みですか？

2025年4月に導入された患者支援アプリ「ウェルコネ」の登録はお済みでしょうか？

【ご利用いただける機能】

- アプリ決済(後払い会計)
- 医療情報確認
- 会計履歴、診療履歴
- 処方箋情報送信
- 受診予約確認



アプリのインストールはこちらから

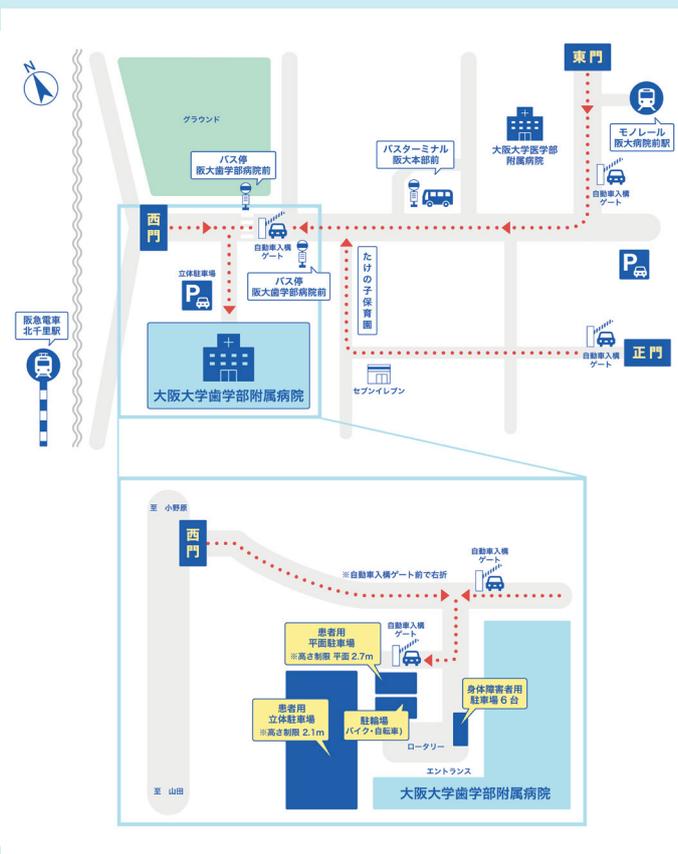
院内でのマスク着用ルールが変わりました

院内でのマスク着用ルールが2025年7月から変更となりました。

- 1) 病院内でのマスク着用については、患者、職員ともに個人の判断とする。
- 2) 患者、職員は、自身が発熱・咳などの症状、その他体調不良がある場合、感染症流行時期はマスクを着用する。
- 3) 病棟特性により、入院患者との面会時はマスクを着用する。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

大阪大学歯学部附属病院



住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

駐車場：有

歯学部附属病院にお車で越しの際は、大阪大学西門よりお越しください。



病院HPはこちら



アクセスの詳細はこちら

TEL: 06-6879-5111 (代表)
06-6879-2848 (時間外)

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知おきください。夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話(06-6879-2848)のうえ、お越しください。

診療日

月～金 休診日：土/日/祝/年末年始(12/29～1/3)

診療受付時間

【初診受付】8:30～11:30(初めて受診の方、紹介無し可)
【再診受付】8:30～15:00(原則として全科予約制)

標榜診療科

歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

●対象となる疾患●

予防歯科、う蝕(虫歯)、歯周病、補綴(冠、義歯、インプラント)、歯列不正、口腔がん、口唇口蓋裂、顎変形症、障害者歯科、摂食・嚥下・発音障害、スポーツ歯科、口臭、ドライマウス、睡眠時無呼吸、歯の外傷等

寄付のお願い

地域支援や社会貢献に役立つよう、病院の環境整備・教育研究などの病院運営に有効活用させていただきます。



ご意見募集!

読者のみなさまからの、広報誌「おおきに健康歯とお口から」へのご意見をお待ちしております!

